

## 「ルートヴィヒ美術館展」

### 20 世紀美術の奇跡—市民が創った珠玉のコレクション

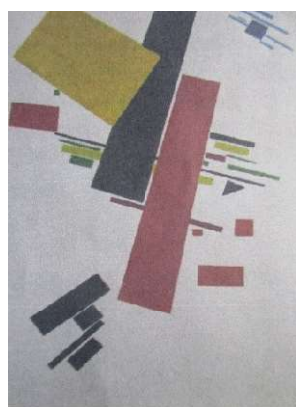
国立新美術館(六本木) 2022. 06. 29～22. 09. 26

京都国立近代美術館(岡崎) 2022. 10. 14～23. 01. 22

ドイツ・ケルン市民によって運営される「ルートヴィヒ美術館」は、数多くの市民コレクターの寄贈を軸にして形成されてきたことが大きな特徴である。

当美術館は、20 世紀から現代までの美術作品を収集し、ヨーロッパ最大ともされる「ポップ・アートのコレクション」を筆頭に、「表現主義」や「新即物主義」などドイツの近代美術、世界で3本の指に入る「ピカソ」のコレクション、さらに「ロシア・アヴァンギャルド」の名作品、そして写真史を網羅する「写真コレクション」などを収集していて国際的にも高く評価されている。

本展は、同館のコレクションからよりすぐった20世紀初頭から現代までの近現代の美術作品「152点」を展示している期待の大型西洋美術展である。



ワシリー・カンディンスキー 《白いストローク》1920年 油彩/カンヴァス

作品のタイトルの白いストローク（筆線）は、カンヴァス上の制作行為の性質を示して、目の粗い不規則に織られた袋のようなシュート麻に描かれているが、下塗りはなく絵具はがさついて部分的に厚く塗られている。

カジミール・マレーヴィチ 《シュプレマティズム 38 番》1916年油彩カンヴァス  
パブロ・ピカソ 《アーティチョークを持つ女》

ピカソ(1881～1973)は、スペイン・マラガ生まれフランスで制作活動をした画家で、素描家、彫刻家でキュビズムの創始者として知られ、生涯におよそ1万3500点の油絵と素描、10万点の版画、3万4000点の彫刻と陶器を制作した最も多彩な芸術家であると『ギネスブック』に記されている。